

スマホが消える

携帯電話のなかった昭和の時代。車に乗ると座席では読書する人、新聞を読む人が多くいました。駅には待ち合わせの伝言板があり、あちこちにあった公衆電話は10円玉でかけたものです。その後、テレホンカードが普及して、大変便利になった記憶があります。平成の時代は、携帯電話の急速な普及で片時も手放せない人が増加しました。令和の時代は会話がチャットオンラインで行えるようになりました。情報端末とともにコミュニケーションも変わりつつあります。さて、みずほ銀行が昨年4月にまとめた2050年までのIT（情報通信）な

ど主要産業を展望する「調査報告書」によると、生活必需品のスマホの普及率は、現在の65%が、40年に30%、50年に0%になると予想しています。20数年後にスマホが影も形もなくなっても、生活のデジタル化は進化・発展していくでしょう。眼鏡型の「スマートグラス」や裸眼に装着する「スマートコンタクト」などの次世代の情報端末が、スマホに代わり生活に溶け込んでくることを予想しています。テクノロジーの力で身体や空間の制約から解放される未来がいずれやってきます。スマホで自分を撮影する「自撮り」はなくなり、旅先の写真で笑っているのは自分のアバター（分身）かも知れません。

〇十一月の言葉

悩みの最良の解決策は、自然とのふれあうことが一番です。

〇語彙力チェック

①次の文の□に後の語群から適当な語を入れよ。

実技は二の口、まず、心を鍛えられた。

A 番 B 次 C 句 D 足 E 舞

②次の文の□に後の語群から適当な語を入れよ。

それでは彼の二の口を演ずるだけだ。

A 番 B 句 C 足 D 矢 E 舞

③次の文はどちらの表現が正しいか。

A 大失敗のショックで二の矢がつけない。

B 大失敗のショックで二の矢をついだ。

④「二番煎（せん）じ」の反対語は次のどれか。

のどれか。

A 可燃性 B 挑戦的 C 新鮮味

⑤「にべもない」と同意の表現は次のどれか。

A あられもない B とんでもない

C そっけない D かわりばえない

（解答）①B②E③A④C⑤C